

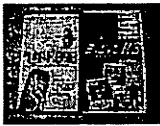
平成22年度 金融教育研究活動実績

1 研究課題

金融教育を通して、高校生のライフスタイルと健全な金銭感覚の正しい在り方を考えさせ、消費者力の向上を図る。

2 活動実績

対象生徒(数)	総合学科1年次生(200名) 学級数:5クラス
科目	家庭総合①

学期	月	活動内容
後期	1 1	<p>消費者として自立する 消費行動を考える 主体的な消費行動 経済生活の自己評価を行い、分析し、経済マネジメントの必要性を認識する。 テレビCMを比較検討、CM制作の意図を分析しながらその影響について考える。 [ワーク 1-①②]</p> <p>契約社会と消費者 契約の意味を知る [ワーク 2] 多様化する販売方法と問題商法、クーリング・オフ制度について [ワーク 3] 契約トラブルへの対処について [ワーク 4] VTR「ミッションR3」具体的な問題商法の手口を知る。[ワーク 5] →  (悪質商法対策ゲームによる問題商法への対処方法を考える)</p>
	1 2	<p>支払い方法の多様化と消費者信用、多重債務について [ワーク 7, 8] 消費者の権利と責任 [ワーク 9] 資源・環境を考える 環境問題と消費行動のかかわりについて [ワーク 10]</p>
	1	<p>経済的に自立する 家庭経済について [ワーク 11] 経済のしくみを知る 計画的にお金を使う DVD教材「経済設計の必要性」を視聴、家庭経済管理の必要性を考える。</p>



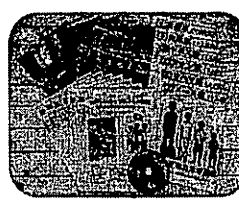
平成23年度 金融教育研究活動実績

1 研究課題

高めよう、消費者力 一行動する消費者をめざして一

2 活動実績

対象生徒(数)	1年次生(200名) 学級数:5クラス	2年次生(196名) 学級数:5クラス	3年次生(44名) 展開数:2クラス
教科	家庭総合(2単位)	家庭総合(2単位)	発達と保育(2単位)

学期	月	活動内容		
		1年次 家庭総合	2年次 家庭総合	3年次 発達と保育
前期	9			
	10	消費経済分野 ・これまでの自分の買い物を振り返ろう (ワークシート1) ・消費者としての自覚を持とう (ワークシート2)	食生活分野 ・これからの食生活を考える 	子どもの生活分野 ・絵本「お金のきもち」(知育教材製作) 
	11	・いろいろな販売方法と問題商法の手口を知ろう (ワークシート3) ・マインドマップで考えよう ・クーリング・オフ制度を知る (ワークシート4)	・エコクッキング (調理実習)	
	12	・支払いに関わるカードの特徴 (ワークシート5) ・クレジットカードの魅力と利用上の注意 (ワークシート6) ・多重債務に陥らないために (ワークシート7)		児童福祉分野 ・児童労働について (フェアトレードを考える)
	1	・消費者問題の歴史から学ぼう (ワークシート8) ・私たちの生活と資源・環境 (ワークシート9～10)		
2	エコジャクを知る DVD:環境と共生する暮らし 経済的に自立する (ワークシート11) ひとり暮らしの生活費			

金融教育研究授業

科目名「家庭総合」における消費経済分野の授業実践

-マインドマップを取り入れた学習を通して考える-

1 対象学年 1年次

2 単元名 (3) 生活における経済の計画と消費

- ア 生活における経済の計画
- イ 消費行動と意志決定
- ウ 消費者の権利と責任

3 設定の理由

共通教科「家庭」における消費経済分野(消費者教育)の学習は、消費者としての自分を知ること、情報を正しく読み取る力を育てること、加害者にならないための道徳的判断力を育てることを実践的に教育できる可能性を最も有している。自分の生き方を関連づけながら、言語活動との関係を重視し、他者とかわる力や、自らの価値基準をしっかりと持つことへの重要性を認識できる力を身に付けさせたい。

「自分たちの嗜好やライフスタイルに大きく影響され、それぞれの好みを追求する消費生活」、これが消費者として社会に関わる本校生徒のおおよその実態である。欲しいときに必要な分だけ親からお金をもらう生徒も多く、月々の小遣いが与えられる、いわゆる予算生活を送る生徒の割合は少ない。消費行動に関しては、買い物に便利とは言い難い地理的な条件もあり、商品購入スタイルが携帯電話サイトでの通信販売や、インターネットオークション参加による買い物など多様である。また、溢れる情報を上手く選択し、活用することができず、無計画な消費に走りがちな生徒もいる。雑誌やメディアの中の情報が全てだと考えがちな生徒も多く、氾濫する情報の中から自分に

必要な情報を集める能力とそれを選択する価値基準が確立されていない現状がある。

そこで、消費生活に関する基礎的な知識を習得させるとともに、生徒が主体的、意欲的に学び、課題を協力して解決する学習の取り組みや、互いに気づきを共有し、自らの考えや集団の考えを発展させる活動をねらいとして、本題材を設定した。

4 指導目標

- 消費者問題が発生する経済的・社会的背景についての理解を深め、商品購入時など消費生活における意志決定能力の重要性を認識させる。
- 問題商法の概要や特質を理解させ、被害に遭う原因や心理的な要因等を考察させることで、消費者として適切な判断ができるようにする。
- 家計と社会とのつながりについて、家計の構造を理解させるとともに、経済全体の仕組みとのかかわりについても理解させる。
- ライフステージを考慮した家庭の経済計画の意義を理解させ、適切な経済マネジメントが行えるようにする。

5 指導計画 (全 15 時間 本時 5/15 時間)

- 第 1 次 消費者の意志決定とその重要性・・・1 時間
- 第 2 次 消費者問題の現状と課題・・・10 時間
 - (1) 契約と購買行動 (主体的な消費行動)
 - (2) 消費者問題とその発生の背景 (本時 3/4)
 - (3) 消費者の権利と責任
 - (4) 循環型社会と消費生活
- 第 3 次 家計と経済・・・3 時間
- 第 4 次 資金管理とリスク・・・1 時間

(1) 指導内容

時限	指導のねらい	学習活動	留意点・教材等
第 1 次	○現代の消費生活において、情報が与える影響を理解させ、正しい情報のもとで、意志決定の必要性を考えさせる。	・自分が欲しいと思っている物について、消費行動と意志決定の過程と、その重要性について分析する。 ・「ダイヤモンドランキング」を用いて考える。	・ワークシート 1 ■ダイヤモンドランキング※1
第 2 次 (1)	○日常の契約を通して、契約の意味を理解させ、契約する上での注意点などを理解させる。 ○多様化する販売方法について課題を考えさせる。	・日常生活が契約で成り立っていることを知り、消費生活の身近さを実感する。 ・支払いや販売の方法が多様化している状況からしっかりと考えて買うことの大切さを理解する。	・ワークシート 2 ・「情報を正しく理解する目」を養う。
第 2 次 (2)	○身近な問題商法の手口について、「ロールプレイング」を通して考え、だまされないセンスを身につけさせる。	・身近にある問題商法について販売方法の特性を知り、相談事例を通して、気をつけるべきポイントを理解する。 ・VTR「ミッション R3」を視聴し、問題商法の手口を知る。	・ワークシート 3・4 ■ロールプレイング※2 ・キャッチセールス、アポイントメントセールス、マルチまがい商法に関する内容

◎問題商法の被害者像を通して原因心理分析対処法を「マインドマップ」で描き整理させる。	「マインドマップ」で消費者問題被害者像を整理し、自らの消費者力向上への関心を高める。	■マインドマップ
○消費者信用のしくみと内容について理解を深め、適切な判断ができるようにさせる。	・販売信用と消費者金融の特徴を理解する。 ・クレジットカード利用の利便性と問題点に気づき、カード破産などの多重債務問題について実態を理解する。	・ワークシート 5～7
(3) ○消費者市民として安全で安心な消費生活を送るための制度について理解させる。 ○自立した消費者として被害救済を求めるなどの主体的な消費行動をとることの重要性について理解させる。	・消費者問題の解決のために多くの法律があることを知る。 ・適切な意志決定に基づいた消費行動を通して生産者や事業者などに意見を表明する。 ・被害を受けたと思ったら、問題解決のために主体的に行動することがよりよい消費社会を実現する基礎であることを考える。	・ワークシート 8
(4) ○環境問題と消費行動のかかわりについて理解させ、環境への負荷について考えさせる。 ○家庭から排出されるCO ₂ 量について考え、生活改善や商品選択において、CO ₂ の排出量に配慮しながらいかに消費していくかを考えさせる。	・DVD「環境と共生する暮らし」を視聴し、環境問題と消費行動のかかわりについて考える。 ・地球温暖化現象や、ピークカットなど身近な話題を通して、社会や環境に対して適切な尺度をもって環境問題を捉える視点を持つ。 ・家庭から排出されるCO ₂ 量を考える手段として、「エコジャク」の使い方を知る。	・ワークシート 9～10 ・エコジャク ^{※4} を利用した二酸化炭素排出量の計算
第3次 ○家計と社会のつながりについて、家計の構造を理解させるとともに、経済全体の仕組みとのかかわりについても考えさせる。	・家庭管理における経済生活や予算生活の重要性を知る。 ・収入や支出の内訳を理解し、収入の全てがそのまま使えるわけではないことを知る。 ・貯蓄の大切さを知り、長期的な視野をもって家計の管理ができるようになる。	・ワークシート 11 ■シミュレーション ^{※5}
第4次 ○自らの消費生活を関連付けながら、ライフスタイルやライフステージを考慮した家庭の経済計画を理解させる。	・経済生活の自己評価を分析し、ライフスタイルを考慮した経済マネジメントの必要性を認識する。	・ワークシート 12

※1 ダイヤモンドランキング

テーマに関連する9つの事柄を順位付けし、ダイヤモンド型に配置。正解を探ることではなく、自らの考えを説明する力、他者の考えを知り理解する力、集団の合意形成を図る技能を得る教育技法。

※2 ロールプレイング

現実に近い場面を設定し、学習者が特定の役割を演じる。ロール (role) は役割、プレイング (playing) は演技することで、役割演技法ともいわれる。学習者同士が、役割を演じながら互いに対応することを通じて、様々な立場の考え方や意見を理解し、どのような解決が望ましいかを考える訓練になる。合意形成能力を体験的に習得させる教育技法。

※3 マインドマップ

英国の教育者トニー・ブザン氏が開発した思考手法。自然を模倣したかのように、ノートにとる方法で、その描き方には脳の様々な機能を活かす工夫が盛り込まれているとされる。マインドマップを描くプロセスが、「脳トレ」になり、記憶力だけでなく、理解力、発想力、問題解決力などの向上を図ることが可能であるといわれている。

※4 エコジャク

CO₂排出量計算スケール。政府の公的データに基づき数値が作成されている。「環境」に対する「尺度」をもってもらいたいという願いを込めて命名。(山崎教育システム株式会社 企画開発室)

※5 シミュレーション

ある事象をモデル化、単純化して、それを擬似的に体験することにより、問題を明らかにするとともに、学習者がそれを「実感」として認識する模擬実験的教育技法。獲得した経験や成果を再組織化することを目的に学習の行うことで、学習の最終段階における振り返りのアクティビティとして活用することができる。

(2) 評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
○社会の変化と消費生活、消費行動と意志決定、消費者の権利と責任、消費行動と資源・環境について関心をもつことができる。	○消費生活の現状と課題、消費者の権利と責任、消費行動と環境について、自分の生活と関連づけて課題を見つけ、その解決を目指して思考を深めている。	○自立した消費者として責任をもって行動できるために必要な、資料活用技能を身に付け、比較や分類、関連付け等により活用できる。	○適切な意志決定に基づいて、賢い消費者として責任をもって行動できるために必要な基礎的・基本的な知識を身に付けている。

6 本時の学習

題材名 第2次 消費者問題の現状と課題・・・・・・・・・・10時間

第2時 消費者問題とその発生の背景 (本時 3/4)


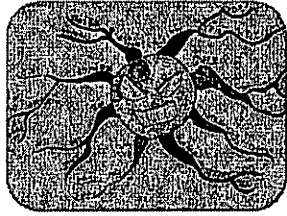
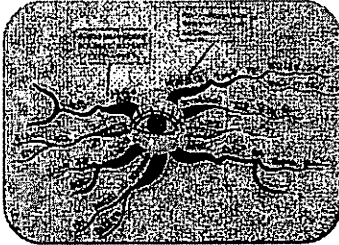
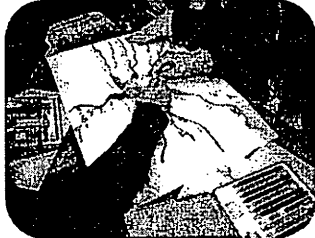
(1) 本時の目標

- 問題商法の被害者像を通して、原因、心理分析、対処法をマインドマップで描き整理する。
- 自らの消費生活を振り返らせながら、「自分はどうのように行動すべきか」を考えることができる。

(2) 展開 1コマ=50分

時限	指導のねらい	学習活動	留意点・教材等
導入 10分	○問題商法の現状を確認する。	・ワークシート 3,4 をもとに、これまでの学習内容を確認する。 ・新聞記事を紹介し、身近な話題に触れ、消費者としての行動について考える。	・ワークシート 3, 4 の振り返り。 ・新聞記事を通して、本時の学習内容を示唆する。
	○マインドマップの書き方の手順を確認する。	・マインドマップ= (脳の地図化) について書き方の法則を知る。	・資料1「マインドマップとは」配布。 ・柔軟な発想力で描くイメージであること



<p>展開 35分</p>	<p>○問題商法における被害者の心理分析をミニ・マインドマップで描く。</p>  <p>○ミニ・マインドマップをもとに、フル・マインドマップへまとめ、「問題商法被害者の原因と対処法」を整理する。</p> 	<p>・「問題商法被害者の心理」について、ミニ・マインドマップを個人でまとめる。(判断を交えずにすべてを書き出す) …5分間</p>  <p>・グループ内で共有する。 …2分間(30秒/人)</p> <p>・4~6人のグループワークにより、フル・マインドマップをまとめる。 ・セントラルイメージ、キーワード、をまとめる。…7分間 ・キーワードから連想するイメージをグループで話し合い、創出していく。…8分間 ・「問題商法被害者の心理と対処法」をフル・マインドマップ上で考える。…8分間</p>	<p>とを強調する。 ・ミニ・マインドマップ用A4用紙,カラーペン配布。 ・セントラルイメージがスムーズに描けるように,トピックを用意する。</p> <p>・独自のスタイルを認め合い,創造的に考えることの意義を伝える。</p> <p>・実践形式は,4~6人のグループワーク。 ・フル・マインドマップ用A2ケント紙配布。</p> <p>〔リーダー:1~2名 タイムキーパー :1~2名</p>
<p>まとめ 5分</p>	<p>○消費者問題における被害者について,実際の生活レベルに照らし合わせて考えることができる。</p>	<p>・フル・マインドマップで消費者問題被害者像を描いたものを通して,自分自身の消費者としての行動を客観的な視点から見直す。</p> 	<p>・マインドマップを活用することで,整理力,記憶力,発想力,コミュニケーション力向上の効果があることを伝える。</p>

(3) 評価

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用 of 技能	知識・理解
<p>○消費行動と意志決定に関心をもち,行動する消費者を目指して実践的な態度を身につけようと学習活動に取り組んでいる。</p>	<p>○消費生活の課題や消費行動について,自分の生活と関連付けて課題を見つけ思考を深めている。 ○具体的な事例を追究したり,発表したりすることができる。</p>	<p>○提示資料をもとに,視点を明確にし,比較や分類,関連付けや帰納的・演繹的技能を活用できる。</p>	<p>○問題商法の被害に遭う原因や心理的な背景を知り,消費者力を備えておくことの意義を理解している。</p>

7 まとめ

主体的な学びと行動のために参加型教育技法を多く取り入れた授業は、家庭科の授業の幅が広がる領域であると感じている。私自身は、生徒が主体的・自主的に学ぶことのできる教材を手探りする中で、これまで多くの先生方が実践されてきた参加型教育技法を活用させてもらい、そしてマインドマップの思考手法を考える機会に恵まれた。本実践では、問題商法被害者心理の分析、対処法の整理を二段階活用した。一段階目はミニ・マインドマップによる生徒個々のイメージ開放による自由な表現としての学習活動、二段階目に小集団によるフル・マインドマップ作成を試みた。本時の取り組みが1枚の紙に色鮮やかにまとめられていくことの自己表現は、生徒へ自信をもたせる効果が大きく期待できると感じた。生徒の反応は、仲間の考えを共有することで表現の仕方やものの見方を共有することができ、新鮮さを感じたようであった。授業後の生徒の感想は、「友達の意見に耳を傾けたり、自分の意見の感想が聞けてよい」「自分の意見が必ず入る」「絵を描いたことによって見ている人により伝わりやすくなる」と、概ねねらいに即したものであった。

8 今後の課題

マインドマップという初めてのツールを授業に取り入れることは少なからず戸惑いもある。また、思考手法の理念を損なうと生徒は、単なる「らくがき」や「ぬり絵」と感じる傾向に陥ることもある。今後、マインドマップを活用した参加型学習手法を深化させる中で、指導者＝促進者 (facilitator) として学習対象者の能力・理解力の差を考慮し、生徒個々の意識を尊重しながら相互の学び合いを引き出すことへのプロセスを再考したい。

【引用文献】

石川克枝著 (2010) 『高等学校新学習指導要領の展開 家庭科編』 p.70～p.74
高橋政史著 (2009), 『マインドマップ問題解決』 p.114
マインドマップ公式サイト <http://www.mindmap.or.jp/about/>

【参考文献】

高橋政史著 (2009), 『マインドマップ問題解決』, ダイヤモンド社
ブザン教育協会監修 (2010), 『マインドマップかき方超入門』, アスキーメディアワークス発行
ブザン教育協会公認 (2010), 『小学生のためのマインドマップで作文すらすらワーク』, 小学館
工藤啓著 (2009), 『16歳のための暮らしワークブック』, 主婦の友社
マインドマップ公式サイト <http://www.mindmap.or.jp/about/>
国立教育政策研究所 HP 『第9章 家庭』 <http://www.mindmap.or.jp/about/>